

おもしろ筋名 萩城下町歩きマップ



学芸員さんに聞いてみよう!

萩の筋名と町印

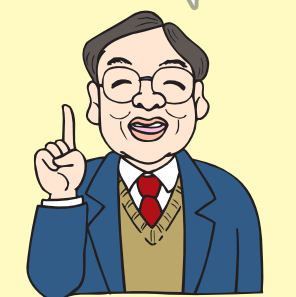
いつ筋名はつけられたの?

萩は、周防・長門両国を領有した毛利氏36万9000石の城下町として江戸時代、260年間にわたって栄えてきました。

城下町は松本川と橋本川に囲まれた三角州上につくられ、町づくりは三角州内の木や竹を切り払い、沼地を埋め立てて街路や宅地を造成することから始められました。

計画的につくられた萩城下町では、基準となる街路を設定し、その街路に平行、あるいは直交する形で、方角や防御・防災などを考慮して町割りがおこなわれました。

起源は江戸時代!



(萩博物館 副館長 樋口尚樹さん)

筋名の特徴は?

萩の筋名は現在約250確認されていて、それぞれに様々な由来があります。同業の商人や職人たちが集まって住んでいた城下町らしく、職業名にちなんだものが多いのが特徴です。

また、流行ったものや筋の形などが名前の由来になったものもあり、当時の人の粋な心が感じられます。



計画的につくられた萩城下町(安政元~2年 萩城下町絵図)

どんな時に町印が使われたの?

萩城下の町は、全部で28ありました。「町奉行」が支配し、「御客屋」という町奉行所が設けられました。このほか、萩城下の港町であった浜崎町、浜崎新町の2町があり、「浜崎宰相」に属していました。



萩城下はその地理的事情から、築城以来大規模な洪水に見舞われました。そのため、萩藩は「萩川々洪水防止法」を制定。見張役人が危険を知らせる喚鐘を打ち鳴らすと、各町はリレー式に鐘を鳴らし、役人、町人、農民などおよそ1000人余りが出動して水防にあたりました。

このとき、各町が持ち場についていることの合図として掲げたのが、町印が描かれた「昇」と「提灯」。



町印が描かれた提灯(萩博物館にて展示中)

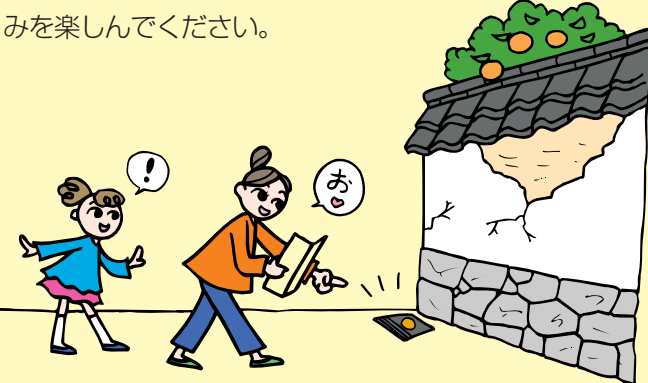
まち歩きにでかけよう!

城下町・御成道エリアには筋名埋め込みサイン57基を設置しています。

さあ、「筋名マップ」を持って、埋め込みサインをたどりながら、江戸時代の歴史やまちなみを楽しんでください。



筋名埋め込みサイン



萩市地図



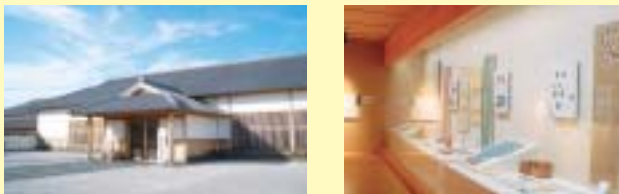
筋名情報はこちらで

~萩をもっと知りたい方へ~
■ 萩博物館 (本町の北、猫町の東)

筋名、町印の情報のほか、特徴ある萩の歴史や文化、自然などを模型や映像、実物資料で分かりやすく紹介します。

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日 なし(年1回臨時休館あり)
入場料 大人 500円 高校・大学生 300円
小・中学生 100円

住所 萩市堀内355
TEL 0838-25-6447
FAX 0838-25-3142
URL <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagihaku/>



城下町にあり武家屋敷にならった外観が特徴

~まち歩きをもっと楽しみたい方へ~
■ NPO萩観光ガイド協会 (江戸屋横町の北、呉服町)

萩の史跡や文化財、古い町並みを解説つきで楽しむことができます。コースや時間は自由に設定できます。

ガイド料 1,000円 ※要予約
(集合場所と解散場所が別々の場合は2,000円)
住所 萩市呉服町1丁目33番地2
申し込み 0838-25-3527



~まだまだ面白ストーリーが知りたい方へ~
■ 筋名ホームページ

このマップでご紹介する筋名のほか、萩市内の全筋名の位置、別名、由来などを調べることができます。

URL <http://machihaku.city.hagi.yamaguchi.jp/street/>



発行 まちじゅう博物館シンポジウム実行委員会
城下町・萩筋名復活委員会
問い合わせ 萩市まちじゅう博物館推進課
TEL/0838-25-3166

おもしろ筋名で 萩まち歩きマップ

城下町・御成道

萩に蒙古襲来!?
高句麗埵 (こくりがたお) Map B-3

鎌倉時代、元寇の際に高句麗の軍が上陸し、戦ったといわれています。東側には藩の土木建築用務を行う「大木屋」、西側には会計用務を行う「御蔵許」がありました。

妖怪しだい高 現る!?
浜町 (はまのちょう) Map B-2

菊ヶ浜と平行に走り、潮風が香り、石垣が今も美しく残る筋です。その昔、妖怪「しだい高」をこの付近で退治し、石垣に刀傷ができたとか。夜道の通行にはご注意ください。

萩城下のメインストリート
本町 (ほんちょう) Map C-3

江戸時代には、今よりも2倍の道幅があり、藩主の参勤交代の道、「御成道」でもありました。両側には、主に藩主毛利家一門の上屋敷が建ち並んでいました。

町の由来と町印

町印は、各町名に由来するデザインが用いられています。デザインの意味を想像しながらまち歩きを楽しんでください。

耳を済ませば今も鳴き声!?
猫町 (ねこのちょう) Map B-4

毛利輝元の家臣長井元房には、かわいがっていた猫がいました。彼が輝元の後を追って殉死すると、その猫も、主人の後をおって主人の墓の前で死んでいたそうです。この筋に長井の屋敷があったことから、名前の由来となりました。

城下町特有の鍵状の道
袋町 (ふくろちょう) Map C-5

袋小路になっていたことから、名前の由来となりました。現在は慶安橋筋とつながり、鍵状の道になっています。鍵状の道は、今でも堀内・平安古の「鍵曲」と袋町、江向の筋の4箇所で見られます。

流行ヘアスタイルが筋名に
糸鬢町 (いとびんちょう) Map C-5

江戸時代、若者間で糸鬢というヘアスタイルが流行しました。この筋が非常に細く、ヘアスタイルの鬢の形状を思い起こすことから名前の由来となりました。

筋名から知る萩城下のあれこれ

筋名からいろいろ分かるよ!

〜頓振町から知る〜
萩城下にも銭湯!?

ドンブリ型の風呂があったことから名前の由来となった頓振町。藩政時代、銭を鑄造していた職人たちが、仕事が終わってから汗を流しにやってきました。職人たちの活気あふれる声が聞こえてきそうです。萩城下の武家屋敷や町屋の平面図では、いわゆる「内風呂」が確認できます。現在のように湯をふんだんに使い、肩までつかる形の風呂であったかどうかは不明です。



ここで転ぶと恐ろしいことが!?
三年橋筋 (さんねんばしすじ) Map C-3

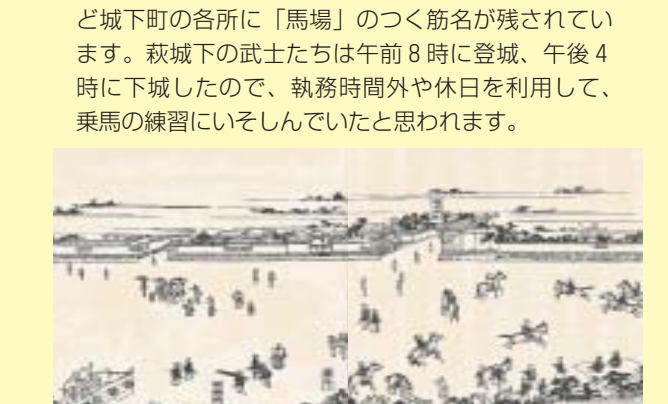
三年橋という石橋があったことから、名前の由来となりました。転ぶと三年以内に死ぬといわれていたが、この辺りは坂道なので、通行に注意を促すとえだと思われます。

町の住人が筋名に
雑賀下がり筋 (さいかさがりすじ) Map B-7

萩藩士雑賀三郎右衛門の屋敷前から下っていた道のため、名前の由来となりました。また、新堀川に架かる「彩花橋」の名称は、この筋の名をとった雅称です。筋名には、町に關係の深い人物の名前を用いた例も多く見られます。

〜大馬場筋から知る〜
馬術は武士のたしなみ

江戸時代、乗馬の練習を行う広場、「馬場」があった大馬場筋。ほかに、平安古、土原、江向、金谷など城下町の各所に「馬場」のつく筋名が残されています。萩城下の武士たちは午前8時に登城、午後4時に下城したので、執務時間外や休日を利用して、乗馬の練習にいそんでいたと思われます。



〜唐樋町から知る〜
萩の交通の要衝

ここは、萩往還(山口方面)、赤間関街道(下関方面)、石州街道(津和野方面)の出発点であり、多くの人々が行きかう交通の要衝でした。そのため、「礼場」が設けられ、藩主が決めた法度や提書などを木の板札に書き、人目をひくように掲げていました。なお、萩城下で禁じられていたことは、「路上での喫煙」や「ゴミの不法投棄」などでした。



北片河町・南片河町 (北片河町) Map A-4 (南片河町) Map C-4

町筋の西側は萩城の外堀だったので、片側のみ町が作られたことから名前の由来となりました。

呉服町一丁目・二丁目 Map B-5

当初は御福町と呼ばれていましたが、町年寄が呉服の商売をしていたので改められました。

瓦町 Map B-5

このあたりには瓦職人が住んでいたことから、名前の由来となりました。

西田町・東田町 (西田町) Map B-7 (東田町) Map B-7

城下町の建設当時、田地であったことから商家が並ぶ町ができたことから名前の由来となりました。西田町の町印は、「西」の読みをとって「にし貝」がデザインされています。

米屋町 Map B-6

萩藩がここで家臣へ米を支給していたことから、名前の由来となりました。町印は、米を計る「升」と「かき棒」がデザインされています。

唐樋町 Map C-8

このあたりは沼地の声原で唐樋門(水門)があったことから、名前の由来となりました。

唐樋礼場の図 (八萩城名所図繪)